

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府羽曳野市第2期中層・高層住宅(建て替え)新築工事(7号棟)	階数	地上6F
建設地	大阪府羽曳野市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、法22条区域	平均居住人員	119人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年10月1日
敷地面積	2,950㎡	作成者	株式会社上坂設計
建築面積	596㎡	確認日	2020年10月1日
延床面積	2,949㎡	確認者	株式会社上坂設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★☆☆☆ B: ★☆☆☆☆ BEE=1.0 C: ★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 86%
④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 配置計画や外構計画により、既設住宅との統一感・連続性に配慮する。道路沿いには緑地帯を設け、空地には植栽を充実させる。府営住宅として、安全性・経済性を重視した良質な住環境を創出する。		
Q1 室内環境 バリアフリー法の移動円滑化基準を満たし、車いす利用者にとっても利用しやすい計画とした。	Q2 サービス性能 バリアフリー法の移動円滑化基準を満たし、車いす利用者にとっても利用しやすい計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 死角のない配置計画とし安全性に配慮した。先行の第1期住棟と調和した外観計画とした。
LR1 エネルギー 各住戸に自然採光、自然通風を確保した。	LR2 資源・マテリアル 床フローリング下地のパーティクルボードについてリサイクル材を使用する。	LR3 敷地外環境 敷地内は、透水性インターロッキング舗装の採用と雨水貯留槽の設置により、都市公園抑制を図る。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0094

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	大阪府営羽曳野古市第2期中層・高層住宅(建て替え)新築工事(7号棟)					
		建設地	大阪府羽曳野市古市					
		用途/区分	集合住宅					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					3		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.5	4		
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			1.0	2		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価			3.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価			4.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			3.0	3		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			3.1	3		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	-		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								